

北浦の水質浄化対策について

3. 農地対策

- 農業と環境の関係性
- エコ農業茨城
- 環境にやさしい営農活動の推進
- 堆肥の活用
- 適正施肥の推進

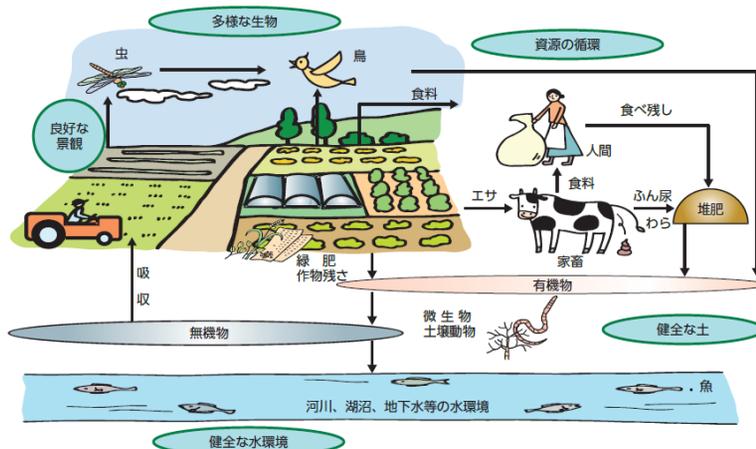
茨城県農林水産部エコ農業推進室

1

農業と環境の関係性

農業と環境は相互に影響している

図3-8-1 農業の自然循環機能のイメージ



資料：農林水産省作成

2

農地対策の項目と目標（北浦流域）

農業者に対する意識啓発をすすめ、エコ農業いばらき推進基本計画に基づき、生産性の調和に配慮した環境にやさしい農業を推進

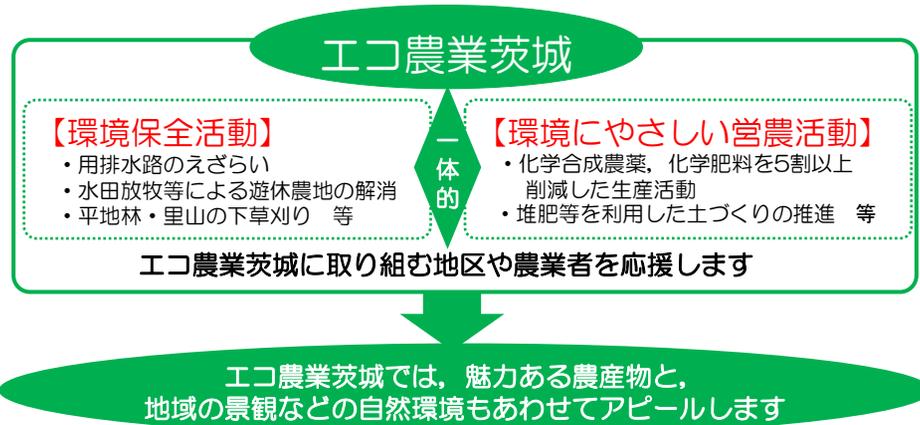
霞ヶ浦に係る湖沼水質保全計画(第6期)＜農地対策(北浦)＞の目標数値

項目	現況 (H22年度)	目標 (H27年度)
化学肥料流通量	888t	856t (5年間平均)
エコファーマー認定計画の導入面積	2,764ha	7,200ha
化学肥料及び化学合成農薬を5割以上削減した環境にやさしい営農活動実施面積	161ha	402ha

3

エコ農業茨城

平成20年度から、農村の環境保全活動と環境にやさしい営農活動を地域ぐるみで一体的に進める「エコ農業茨城」を全県的に推進し、その取り組みや成果、農産物の情報発信をすることで、本県農業・農村・農産物の良好なイメージの向上を図っています。



4

環境にやさしい営農活動の推進

茨城県特別栽培農産物

化学合成農薬と化学肥料の使用を、慣行の5割以上削減して栽培するなど、一定の要件を満たした農産物を県が認定しています。



エコファーマー

持続性の高い農業生産方式を導入する計画を作り県知事の認定を受けた農業者の「愛称」です。以下の3つの技術に取り組んでいます。

- ①土づくり(堆肥、緑肥作物等の活用)
- ②化学肥料低減技術(有機質肥料、肥効調節型肥料、局所施肥技術等の活用)
- ③化学合成農薬低減技術(天敵昆虫、防虫ネットフェロモン剤の活用等)



5

基本技術「たい肥の活用」



- たい肥には土壌の性質を改善する効果があります。
- たい肥中の肥料成分を上手に活用することで、化学肥料の使用を減らせます。
- 土壌診断に基づき、田畑の状態や、栽培する作物に合わせた適正な使用が重要です。

堆肥の種類(原料)と土壌改良効果

	牛ふん	豚ふん	鶏ふん
肥料効果(化学性改善)	小	中	大
土壌改良効果(物理性改善)	大	大	小
地力向上効果(生物性改善)	大	中	小

6

適正施肥の推進(レンコンの例)

環境負荷低減に資する栽培法の確立



レンコンが必要な分だけ施肥を行う栽培法を開発するなど、化学肥料使用量の低減に取り組んでいます。

○レンコン金澄系主要品種における効率的施肥技術の開発
【農業総合センター、霞ヶ浦環境科学センター】